

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572505931
法人名	医療法人 薫風会
事業所名	認知症老人グループホーム元瀧荘
所在地	秋田県にかほ市象潟町小滝字麻針堰19 (電話) 0184-44-2935
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年10月19日

【情報提供票より】(21年 9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての ~ 1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円 または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.2歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	象潟病院 後藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥海山の麓との自然豊かな環境に位置し、入居者一人ひとりの尊厳を大切にしたい、家庭的な落ち着いた建物である。ホーム内の食堂兼談話室ホールの広いスペースが、入居者と職員が共に過ごし支えあう空間として活用されている。入居者全員がそれぞれの生活歴での経験や特技を活かして、一緒に畑で野菜作りをし、その野菜を食材として食事を作ったりしている。希望に応じた買い物、温泉などの外出支援、時間にとられない夜間入浴の実施等、入居者一人ひとりのペースを尊重した支援が行われている。併設の病院と施設の専門職の協力を得て、連携が図られており、サービスの充実につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価で挙げられた項目は、理念の構築、運営推進会等であった。理念については、誰もがわかりやすい独自の理念が構築されている。また、運営推進会議を活かした取り組みや地域との付き合いについて、全職員で評価を活かして具体的な改善に向けて努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価結果をよりよい支援に活かしていくため、自己評価を職員間で話し合い、利用者本位の自立支援に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の開催回数が少ないが、より話し合いが深められ、サービス向上に活かされていく会議の持ち方を検討し、開催回数を増やす努力をしている。市町村担当者とは、運営推進会議以外にも、できるだけ交流を図り、連携を深めるように努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情受付箱、苦情相談窓口を設置し、苦情や要望等を積極的に吸い上げるよう努めている。また、ケアに関する事や心配な事がないか、機会を見つけては直接家族に聞いて、より良いサービス提供に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、老人会との交流はまだないが、地域の子供会や保育園との交流を通じ、地元の人々と交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域や家族との交流の場を多く持ち、住み慣れた環境の中で一人ひとりに合った生活が送れるように援助していく理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大切にして、入居者が「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができるようサービス提供に努め、職員はこの理念や方針を共有し、随時話し合いをして確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会との交流はまだないが、地域の子ども会や保育園との交流を通じ、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価結果や日々のミーティングを通して利用者本位のよりよい自立支援に活かすよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開催回数は少ないが、より話し合いが深められ、サービス向上に活かされていく会議の持ち方について検討し、開催回数を増やす努力もしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市町村主催の研修会への参加などできるだけ交流を図り、連携を深めるように努めている。		ホームからの働きかけにより、積極的に市町村担当者と係わり、行き来できるような関係作りに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	それぞれの家族との個別の連絡を大切にしており、写真の送付と共に職員から家族宛の手紙を送り、入居状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱、苦情相談窓口を設置し、苦情や要望等を積極的に吸い上げるよう努めている。また、機会を見つけては直接家族に聞いて、よりよいサービス提供に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動はあが、利用者がダメージを受けないように、最少人数で行ったり、引き継ぎに時間をかけたりする等の配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に出来るだけ参加できるよう配慮されている。参加した職員は復命伝達をしている。また、有資格者はその資格取得を希望している職員に助言やトレーニングを行う等、働きながら学ぶ体制が整えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会等に出来るだけ参加して交流する機会を持ち、情報交換等を通じ、サービスの質を向上させていく取り組みに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して徐々にホームの生活へと馴染んでいくことができるように、職員が寄り添い、他の入居者との交流に目配りをし、個々に合わせた様々な配慮に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が常に入居者の近くにおいて喜怒哀楽を共にし、日々の生活の中で入居者から教えてもらう事も多く、畑仕事や料理など様々な場面で活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「出かけたがたい所」や「食べたい物」を申し出てもらい、入居者それぞれの生活の中にある、思いや意向の把握に努め、支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と話し合う機会を持ち、本人や家族の要望や意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議や随時の話し合いにおいて、介護計画の見直しを行っている。3ヶ月を見直しの基本期間と設定しているが、入居者の利用状況の変化に応じ、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望に応じ、個別の外出支援を行ったり、法人内の併設病院や併設施設との交流にも柔軟な対応に努め支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの希望にそったかかりつけ医やかかりつけ歯科医を受診できるように支援している。整形外科なども外来で受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期へのあり方について、本人や家族、かかりつけ医などと話し合っ方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員それぞれが、一人ひとりの誇りやプライバシーを十分に尊重した言葉掛けをし、利用者本位の対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切に、当日の急な外出でも、楽しみながら弁当作りや荷物の準備をする等、希望に沿って生活できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れた献立を考え、個々の経験や特技を活かして役割分担し、職員と一緒に買い物に出かけている。利用者全員で個々の能力に応じ食事の準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、入浴時間を決めており、夜間の入浴も行っている。個別に外出して温泉に行き、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での野菜作りや、収穫した野菜を食材として料理したり、日々の生活の中で個々の生活歴や力を活かしている。やりたいことをしてもらうことによって意欲的に暮らしていけるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、温泉など、希望に応じた個別の外出の機会を持てるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	周囲が山に囲まれ、危険な場所もある環境であるが、日中玄関に鍵をかけない取り組みを行っている。センサーを取り付けたり、一人で出て行く入居者には職員が付き添うケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で消防計画を策定し、年2回ホーム独自に夜間想定避難訓練を実施している。有事の際は、法人全体での応援体制が整っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録して、バランスよく食事を取れるように配慮されている。併設施設の管理栄養士に相談できる体制が整えられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、不快な音や臭いや光がないように工夫されており、入居者の尊厳を重視した装飾品等の掲示や季節の花が飾られた居心地よく過ごせるよう配慮されている。		掲示物や装飾品に配慮しているが、今後は入居者がより理解しやすく、使いやすい環境作りに工夫していくことを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれの思いに沿った家具や品物を持ち込み、落ち着いて生活できる環境作りに努めている。		居室に備え付けられている洗面台について、利用者の方が、使いやすい環境となるように検討されることを期待する。

※ は、重点項目。